

2022年3月13日
礼 拜

聖書

ルカの福音書5章1～11節

5:1 群衆がイエスに押し迫るようにして神のことばを聞いたとき、イエスはゲネサレ湖の岸べに立っておられたが、

5:2 岸べに小舟が二そうあるのをご覧になった。漁師たちは、その舟から降りて網を洗っていた。

5:3 イエスは、そのうちの一つの、シモンの持ち舟に乗り、陸から少し漕ぎ出すように頼まれた。そしてイエスはすわって、舟から群衆を教えられた。

5:4 話が終わると、シモンに、「深みに漕ぎ出して、網をおろして魚をとりなさい」と言われた。

5:5 するとシモンが答えて言った。「先生。私たちは、夜通し働きましたが、何一つとれませんでした。でもおことばどおり、網をおろしてみましよう。」

5:6 そして、そのとおりにすると、たくさんの魚が入り、網は破れそうになった。

5:7 そこで別の舟にいた仲間の者たちに合図をして、助けに来てくれるように頼んだ。彼らがやって来て、そして魚を両方の舟いっぱいに出したところ、二そうとも沈みそうになった。

5:8 これを見たシモン・ペテロは、イエスの足もとにひれ伏して、「主よ。私のような者から離れてください。私は、罪深い人間ですから」と言った。

5:9 それは、大漁のため、彼もいっしょにいたみなのも、ひどく驚いたからである。5:10 シモンの仲間であったゼベダイの子ヤコブやヨハネも同じであった。イエスはシモンにこう言われた。「こわがらなくてもよい。これから後、あなたは人間をとるようになるのです。」

5:11 彼らは、舟を陸に着けると、何もかも捨てて、イエスに従った。

説教

深みに漕ぎ出して、網をおろして魚をとりなさい。

第二週では先月からペテロの信仰の学びをしています。ローマ書からパウロの信仰の告白、信仰の受け止めを学んでいます。ローマ書ではこの信仰をアブラハムは、ダビデはどのように受け止めていたか、パウロは論述しています。それと平行して、第二の週の礼拝でペテロはどのようにイエス様を信じて救われたのか、どのような信仰の歩みをしたのか、比較しながら学ぶことによって私たちの信仰がより豊か、深く、しっかりとしたものとなることを願っています。

今回はヨハネ福音書1章42節から
あなたをケパと呼ぶことにしましょう。

この箇所から聖書を学びました。
イエス様とペテロの最初の出会いです。

ペテロは岩のような頑固男。

アンデレはイエス様にであうとすぐについて行きました。
ペテロはイエス様から声をかけられても何の応答もしていない
無感動な漁師。

そのペテロがイエス様に取り扱われて変えられて行きます。そ
のドラマを学んで行きたいと願っています。

ペテロが最初に登場するのは
ヨハネ1章42節

あなたはヨハネの子シモンです。あなたをケパ、訳すとペテロと
呼ぶことにします。

これがイエス様との最初の出会いです。
ヨハネ、アンデレがバプテスマのヨハネの示す神の子羊イエス
様に従って行き、ペテロも誘いました。
その後ペテロは何をしたのでしょうか。
どんな出会いがあったのでしょうか。

バプテスマのヨハネがイエス様を指し示す働き、メシヤを迎えるための悔い改めのバプテスマを授けていた頃、ペテロは最初、アンデレに誘われてイエス様にであい、あなたはケパ、ペテロと目をつけられています。

イエス様との最初の出会いです。

次の出会いがマルコ1章14～17節に書かれています。

マルコ1章14～17節

1:14 ヨハネが捕らえられて後、イエスはガリラヤに行き、神の福音を宣べて言われた。「時が満ち、神の国は近くなった。悔い改めて福音を信じなさい。」ガリラヤ湖のほとりを通られると、シモンとシモンの兄弟アンデレが湖で網を打っているのをご覧になった。彼らは漁師であった。

イエスは彼らに言われた。「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしてあげよう。」すると、すぐに、彼らは網を捨て置いて従った。

マタイも殆ど同じような書き方をしています。

4:18 イエスがガリラヤ湖のほとりを歩いておられたとき、ふたりの兄弟、ペテロと呼ばれるシモンとその兄弟アンデレをご覧になった。彼らは湖で網を打っていた。漁師だったからである。

4:19 イエスは彼らに言われた。「わたしについて来なさい。あなたがたを、人間をとる漁師にしてあげよう。」

4:20 彼らはすぐに網を捨てて従った。

あの頑固で感受性の乏しい岩のようなペテロが「わたしについて来なさい。あなたがたを、人間をとる漁師にしてあげよう。」とイエス様に呼びかけられて「彼らはすぐに網を捨てて従った。」とマタイとマルコは記述しています。

ペテロを知っている人はこの記述、証しで十分に理解でき感動が伝わりましたが、ペテロを知らない人々の世界で伝道しているルカたちは、どんな気持ちでペテロはすぐに網を捨てたのですか、と興味津々。

そこでルカはペテロの決心の様子を詳しく証ししています。

ルカはパウロのトロアス伝道で救われ、献身して伝道チームに加わりました。直接イエス様に会っていません。ペテロとはどこかでであっているかも知れません。ルカはいろんな人から聞き取り、福音がどのように浸透していったかを調べて記述しています。

ルカ1:1 2 私たちの間ですでに確信されている出来事については、初めからの目撃者で、みことばに仕える者となった人々が、私たちに伝えたそのとおりを、多くの人が記事にまとめて書き上げようと、すでに試みておりますので、
1:3 私も、すべてのことを初めから綿密に調べておりますから、あなたのために、順序を立てて書いて差し上げるのがよいと思います。尊敬するテオピロ殿。

ルカ5:3 イエスは、そのうちの一つの、シモンの持ち舟に乗り、陸から少し漕ぎ出すように頼まれた。そしてイエスはすわって、舟から群衆を教えられた。

5:4 話が終わると、シモンに、「深みに漕ぎ出して、網をおろして魚をとりなさい」と言われた。

ペテロの持っている舟からイエス様は岸边にいる人に教えておられました。

イエス様は説教するためにペテロの舟を借りてそこから説教をしています。ペテロはこの説教を真剣に聞いていたでしょうか。余り興味が無く、網を洗ったり、修理をしていたか。昨晚、一晩中徹夜で漁をしたのに全然魚が捕れなかった。そのことを考えていたのか。イエス様の教えに興味を持っている様子ではありません。舟をイエス様にお貸しする、この小さな親切がペテロの人生を変えて行きました。

説教が終わるとイエス様はペテロに
「深みにこぎ出して、網を下ろしなさい」
と言われました。

ペテロは「私たちは夜通し働きましたが、何一つとれません
でした。」と返答しています。

「でもおことは通り、網を下ろして見ましょう。」
頑固なペテロですが深みにこぎ出してイエス様の言われた
通り網を下ろしました。

この時のペテロは心の中でどんなことを考えていた
でしょうか。

私は漁師、漁のプロ。ガリラヤ湖を知り尽くしている。
イエス様、あなたは元大工で漁の経験はありませんでしょ
う。

この私が一晩中漁をしたのに一匹もとれなかった。
漁は昼間するのではなく夜間するものでありますよ。

こんなことを心の中でブツブツつぶやきながら
せっかく先生がおっしゃるのですから、
とれないことを証明するために網を下ろしましょう。

5:6 そして、そのとおりにすると、たくさんの魚が入り、網は破れそうになった。

5:7 そこで別の舟にいた仲間の者たちに合図をして、助けに来てくれるように頼んだ。彼らがやって来て、そして魚を両方の舟いっぱいに出したところ、二艘とも沈みそうになった。

網が破れそうになり、舟が沈みそうになる奇跡の大漁。
ペテロは驚き、心に大きな衝撃を受けました。

5:8 これを見たシモン・ペテロは、イエスの足もとにひれ伏して、「主よ。私のような者から離れてください。私は、罪深い人間ですから」と言った。

5:9 それは、大漁のため、彼もいっしょにいたみなのも、ひどく驚いたからである。

ペテロはなぜこのように叫んでいるのでしょうか。
ここではイエス様を先生ではなく、
主よと呼びかけています。

なぜこの時
「私は罪深い人間ですから」と言っているのでしょうか。
どうして自分の罪を認識したのでしょうか。
どうして私のようなものから離れて下さい
と言ったのでしょうか。

自分はプロの漁師、自分の判断は正しいという
プライド、高ぶり、高慢な思いが砕かれました。
イエス様を主と信じていない罪が示されています。

ピリポやヨハネはイエス様を神の小羊、メシヤ
と信じて従っているのに頑固なペテロはイエス様を
信じられない、イエス様の舟からの説教も
真剣に聞いていない、不信仰の罪が示されました。

ペテロは最初アンデレに誘われてイエス様について行き、
イエス様にあなたはペテロと言われました。

カナの婚礼の席にも招かれていたかもしれません。
水がぶどう酒に変えられる奇跡も目撃していたでしょう。
病人の癒しも見ていたでしょう。でも自分に直接関係することでは
ないので真剣に信じていなかった。
そんないい加減な自分は汚れた罪人、
離れて下さいと叫びましたが
イエス様は優しく声をかけられました。

イエスはシモンにこう言われた。

「こわがらなくてもよい。

これから後、あなたは人間をとるようになるのです。」

彼らは、舟を陸に着けると、何もかも捨てて、

イエスに従った。

こわがらなくてもいい
恐れるな

イエス様はペテロを叱らないで優しく声をかけられました。

これからあなたは人間をとる漁師になるのです。

人間をとる漁師とは何をするのでしょうか。

漁師は海で、湖で泳いでいる魚を捕って、人間の食料に役立てる仕事。魚は海で泳いでいる限り人間の役には立たない。

神様は魚を人間の食料として役に立つために創造された。漁師は魚を捕らえ、食料に役立てることを通して創造主のお役に立つことをしている。

魚は海で泳いでいる限り人間の役には立たない。もっと大きな魚の餌になるだけ。

漁師にとらえられ、漁師の手にかかり、焼かれて創造のお役に立ちます。

私たち人間も自由に勝手に生きている間は神様のお役に立てない。

ペテロたち使徒、伝道者の伝える福音に捕らえられ、自我、欲望、頑固な心、プライド、自尊心などが塩焼きではありませんが、聖霊の炎で焼かれ、清められ自我に死ぬ時、創造主のお役に立つ者になります。

ペテロは渋々ではありましたが
おことばどおり、網を下ろしましょう、
とイエス様のことばに従っています。

その結果、ペテロは目が開かれ、イエス様をメシヤと信じ、
何もかにも捨ててイエス様に従って行きました。

イエス様は舟の上から神様のことばを語っておられました。
聞いた人々はイエス様を救い主と信じ、プライドや自我、
欲望、頑固な心を捨てて罪赦され、神の子とされて行きました。

ペテロはこの時は網を繕って聞く耳を持っていませんでしたが、不思議な大漁を経験して、神様のことばを心に受け止めて、罪に支配される人生ではなく、
神様に、人にお役に立つ人生に変えられて行きました。

神様のことばを聞くことの素晴らしさを心に留めましょう。

今週も日々、神様のことばに耳を、

心を傾けて行きましょう。

神様のことばに従って、一歩深みに進みましょう。

一歩信仰の深みにこぎ出しましょう。

主のみわざの起こることを信じ、期待しましょう。

祈り